

モラルサイエンス研究会（令和元年7月3日）発表要旨

道徳における偶然性を考えるために
—九鬼周造の偶然論を手がかりとして—

人間学研究室
研究員 竹中信介

我々人間存在は、この一瞬一瞬において生を営んでいる。言い換えれば、過去や未来には生きていないことを意味する。現在という瞬間にこそ、「偶然」という人生を左右する要素が顔を覗かせる。偶然とは、その瞬間ごとには「驚き」であり、ときに「運命」にも変容する。問題は、そこにどのような意志を吹き込むのか、ということである。九鬼周造の偶然論とは、要するところ、偶然を必然化し、運命化するのは当人の意志次第である、ということに尽きる。しかしながら、偶然を必然化し、運命化するのがためらわれる場面が人生にはある。それは、「不運(不幸)な偶然」と呼ばれるものである。このような個別の事態には、深く想いを致し、向き合い続けなければならない。今後は、偶然そして運と道徳の関係、偶然と進化の問題などを中心的に考察していきたい。